

## ロビン・フッドとリトル・ジョン

- 1 ロビンが二十歳かそこらだったころ  
ヘイダウン ダウン ダウン  
ひよんなことからリトル・ジョンと出会いました  
その名の男は剣を持ってばめっぼう強い  
血の気の多い若者でした
- 2 名はリトルでも大男  
身の丈は七フィートもありました  
その名は行く先々で恐れられ  
皆我先にと逃げ出しました
- 3 お望みならば 二人が出会った経緯を  
手短かにお話いたしましたしょう  
数ある物語の中でも  
きつと皆さんがお笑いになるお話です
- 4 剛胆ロビンが陽気な射手たちに言いました  
「お前たちはこの木立に留まっておれ  
俺は森の中をうろついでくる  
呼んだらすぐに駆けつけよ
- 5 「この二週間というもの楽しみが何もない  
俺はちよつと遠出してくる  
襲われて逃げられなくなった時には  
この角笛を吹くからな」
- 6 それから皆と握手して  
の別れを告げました  
小川に沿って歩いてゆくと  
しばし 見知らぬ男を見かけました
- 7 二人が出会ったのは長くて狭い橋の上  
どちらも道を譲りません  
一歩も退かず 剛胆ロビンが言いました  
「貴様にノッティンガムの流儀を見せてやる」
- 8 言うが早い矢筒から矢を一本引き抜きました  
ガチョウの羽で飾った大きな矢  
見知らぬ男が言いました  
「お前が弦つるに触れるなら黙っておらぬ」
- 9 「女のようにべらべらと」と剛胆ロビン  
「俺がひとたびこの弓を取れば」

お前がこの体に触れるより  
その傲慢な胸が射貫かれるが先」

10 「臆病者ほど口達者」と見知らぬ男

「この俺の胸を射貫くのに  
そんなにも長い弓矢を構えるとはな  
俺は棒きれひとつしか持たぬというに」

11 「臆病者だと この俺が何より好かぬ言葉を

ならばこの長弓は捨ておこう  
俺も棒きれひとつでいざ勝負  
貴様の男気とやらを試してやろう」

12 こうしてロビンは茂みに入り

オークの若木の枝を選びました  
それから見知らぬ男のもとに戻り  
胸を張って言いました

13 「見ろ しなやかで強いこの枝を

この橋の上でいざ勝負  
相手を橋より落とせば勝ち  
我らは二度と会うこともない」

14 「この俺の誇りにかけて」と見知らぬ男

「負けることなどできはせぬ」  
言い終わるや口もきかず  
棒きれを振りまわして争いました

15 まずロビンが見知らぬ男に一撃加え

そのあまりの激しさに男の骨が軋みました  
「こしやくな 見ておれ」と見知らぬ男  
「貴様に同じ目あわせてくれよう」

16 「この棒きれ振える限り

借りを返さず死ぬなど大恥」  
それからは互いに打てば打たれ  
その様はあたかもとうもろこしの脱穀のよう

17 見知らぬ男がロビンの頭を割って

血がほとばしり出ました  
これにロビンは怒りに怒り  
もっと激しい一撃をその男に見舞いました

18 激しい怒りに血がのぼり

あまりに強く、あまりに素早く打ったので  
一打一打に見知らぬ男が血煙を上げたその様は  
まるで炎に包まれたかのよう

19 見知らぬ男も怒り狂い

憎しみこめてロビンを見据え  
次に加えた一撃で  
ロビンはもんどりうって川に落ちました

20 「おお友よ 君は今いずこ」

見知らぬ男は笑いながら叫びました  
剛胆ロビンは水の中  
川の流れに浮かんだままこう言い返しました

21 「よかろう 貴様は大した男

金輪際 貴様とは争わん  
口に出して言いたくないが 貴様の勝ちだ  
これで手打ちとしようじゃないか」

22 それから川岸にたどり着き

サンザシの木につかまって岸に上がると  
急いで素晴らしい角笛をとり  
力一杯に吹きました

23 角笛は谷中にこだまして

ロビンの射手たちが集まりました  
目にも鮮やかな緑の衣を身に纏い  
頭のもとにやってきました

24 「お頭様」とウィリアム・ステュートリー

「ずぶ濡れではござらぬか」  
「何でもない ただこやつと争って  
川に突き落とされただけ」

25 「貴様 ただで済むとは思うなよ」と手下ども

あつという間に男を捕え  
川に放ろうとしたその時 ロビンが叫びました  
「控えよ その男はお前たちの手には負えん

26 「心配無用 手出しはさせぬ

これらは皆 俺の手下  
合わせて六十と九人 もしお前が加わるならば

さつそく揃いの服を与えよう

27

「その男伊達おとこだてに相応しい武器ぶどうぐもやろう  
さあ いかがいたす  
弓の使い方も教えてやろう  
太ったダマジカを仕留めるために」

28

「誓おう」と見知らぬ男が答えました  
「わしはお主に仕えよう  
わしの名はジョン・リトル 熱い男よ  
信頼は裏切らぬ 役目は果たす」

29

「その名は変えねば」とウイリアム  
「俺が名付け親になってやろう  
そうと決まれば宴の支度だ けちけちするなよ  
陽気にやろう」

30

すぐに二頭の太った雌鹿と  
強い酒を持ち込んで  
曲がったことが大嫌いな男たちは大宴会で  
かわいい赤ん坊の洗礼式を行いました

31

言うまでもなく 赤ん坊の身の丈は七フィート  
おそらく胴回りは四十五インチ  
なんとかわいい赤ん坊なのでしょう  
散々騒いだ後で ロビンが洗礼を施しました

32

輪になった仲間たちは皆  
ノッティンガムで生まれた者  
勇敢なウイリアムが七人のヨーマンと進みでて  
次のように言いました

33

「この赤子の名はジョン・リトル  
今日を限りに名が変わる  
前と後ろを入れ替えて これより行く先々で  
この者の名はリトル・ジョン」

34

儀式が終わったとたん  
皆 空を振るわせるほどの大声で  
歓喜の雄叫びあげてご馳走に殺到し  
たんまりある強い酒に舌鼓をうちました

35

ロビンはそのかわいい赤ん坊を連れてゆき

頭の先から足の先まで

目にも鮮やかな緑の衣を身に纏まとわせて  
凝まった意匠の長弓を与えました

36

「お前は一番の射手となろう

我らと共にこの森をねぐらとするのだ  
見よ 金銀には事欠かぬ

今ごろ司教たちの財布は空っぽだ

37

「ここをねぐらとする者は皆が名だたる領主  
もつとも 自前の領地はひとつも無いが  
ワインにエールにビールで楽しく食って  
すべては我らの思うがまま」

38

一日中うたって踊って

ついに日が暮れようとした時に

皆やっと木立を去って

寝床の穴ぐらへと戻っていききました

39

それ以来命つづく限り

ジョンは素晴らしく大男であつたけれど  
そんなことはおかまいなしに

皆にリトル・ジョンと呼ばれたのでした

(宮原牧子訳)